



2023年2月期 決算説明資料

2023年4月12日

バリオセキュア株式会社 | 証券コード：4494

INDEX

目次

1. 会社概要
2. 2023年2月期 決算概要
3. 中期成長戦略
4. 2024年2月期 業績予想
5. 参考資料

1. 会社概要

▶ 会社名	バリオセキュア株式会社 (Vario Secure Inc.)			
▶ 創業	2001年6月21日			
▶ 代表者	代表取締役社長 稲見 吉彦			
▶ 資本金	7億4,975万円			
▶ 従業員数	74名			
▶ 所在地	本社 〒101-0054 東京都千代田区神田錦町1-6 住友商事錦町ビル5F 大阪オフィス 〒550-0014 大阪府大阪市西区北堀江1-2-19 福岡営業所 〒812-0013 福岡県福岡市博多区博多駅東1-12-17			
▶ 事業内容	マネージドセキュリティサービス インテグレーションサービス			
▶ 役員構成	取締役営業本部長	梶浦 靖史	取締役技術本部長	山森 郷司
	取締役管理本部長	磯江 英子	社外取締役	芝 正孝
	取締役	林 隆弘	取締役	井口 圭一
	取締役	森 博也	取締役監査等委員	酒井 健治
	取締役監査等委員	深井 英夫	取締役監査等委員	仁科 秀隆
▶ Web	https://www.variosecure.net/			
▶ 認証	ITSMS(ISO20000)、ISMS(ISO27001)、プライバシーマーク			



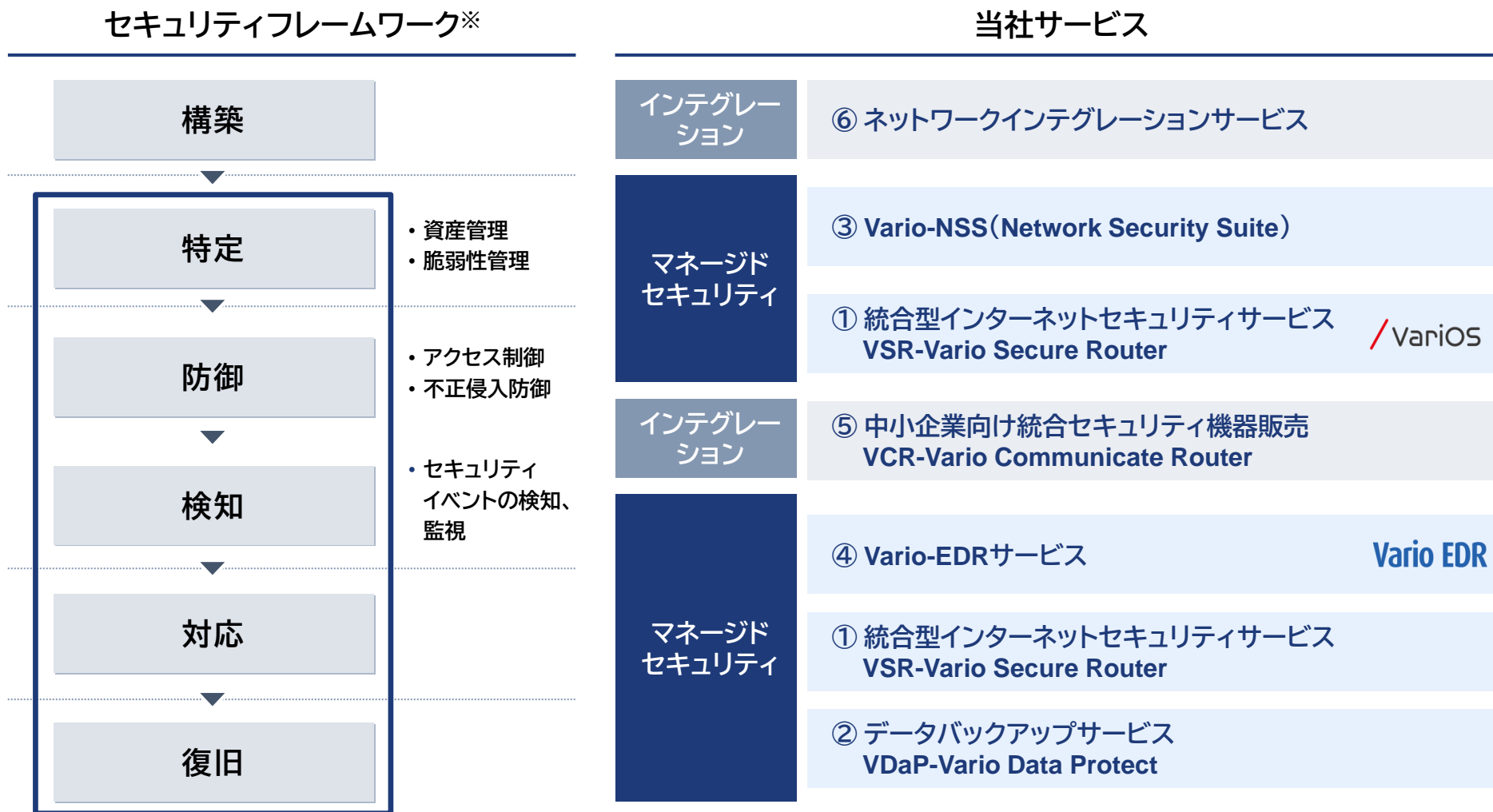
IS 676913 / ISO 27001

※ 2023年2月末時点

企業のインターネット利用を安全・快適にできるサービスを提供

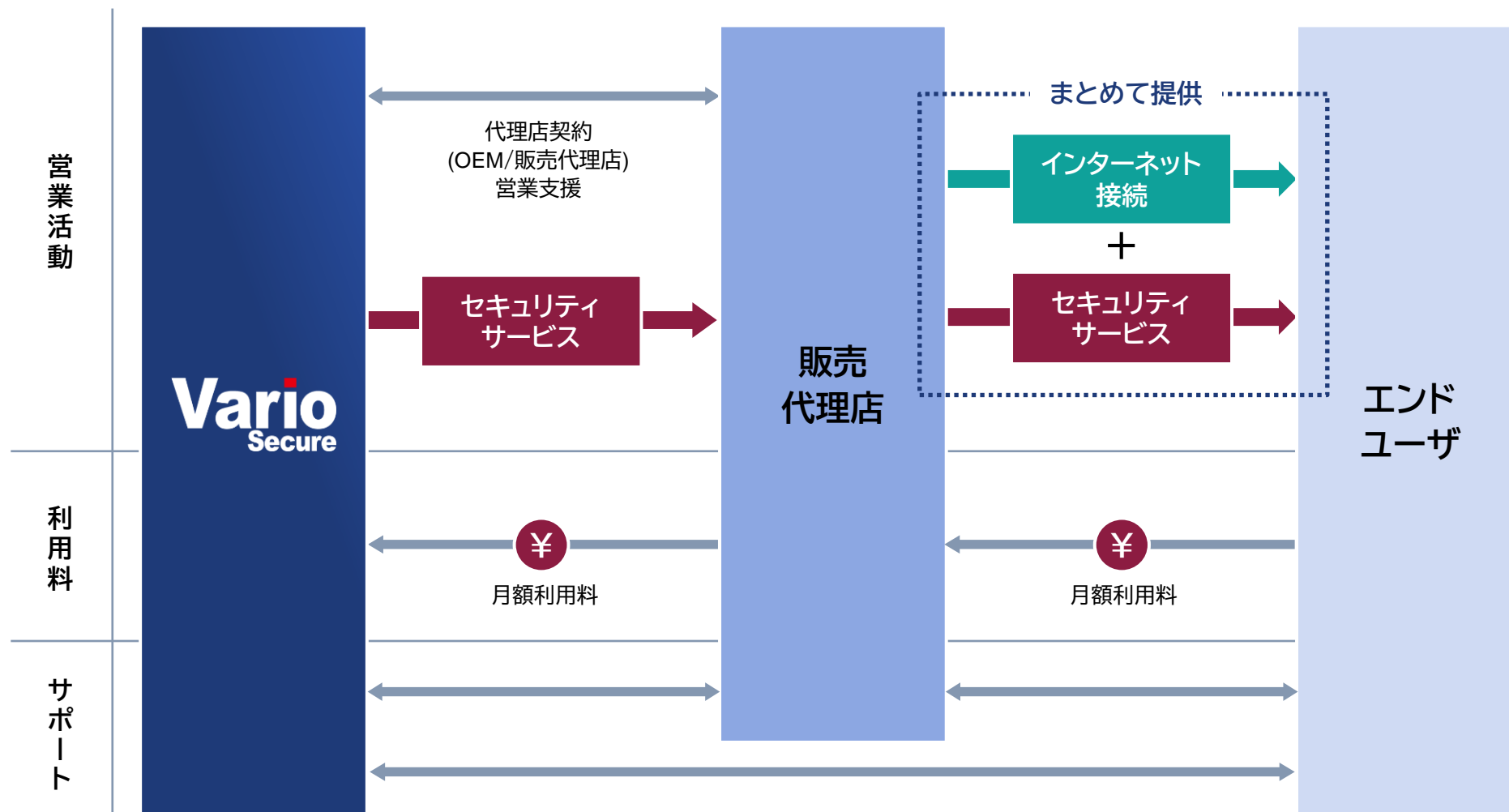
	マネージドセキュリティサービス	インテグレーションサービス
サービス形態	導入支援・導入・運用・保守 24時間/365日、日本全国	機器販売・構築
収益モデル	リカーリング型(月額課金)	一時課金型
サービス内容	①統合型インターネットセキュリティサービス(マネージド型) インターネットの出入口を守る  マネージドセキュリティサービス専用機器 VSR-Vario Secure Router	⑤中小企業向け統合セキュリティ機器販売(販売型) 50名以下ならこれ1台で安心  中小企業向け統合セキュリティ機器 VCR-VarioCommunicate Router
	②データバックアップサービス もしもの時のデータ保持  データバックアップサービス専用機器 VDaP-Vario Data Protect	⑥ネットワークインテグレーションサービス(以下、IS)・ネットワーク機器の調達や構築 社内のネットワークの構築(無線LANネットワーク)
	③Vario-NSS(Network Security Suite) 不正端末発見, 脆弱性管理 	
	④Vario-EDRサービス 少ない運用負担で、サイバー攻撃の発見と対応を支援 	

構築から復旧まで、セキュリティ対策の全プロセスをカバー



※政府機関「米国国立標準研究所(National Institute of Standards and Technology, NIST)」が2014年に発行したNIST サイバーセキュリティフレームワーク(Cyber Security Framework, CSF)。

主力の統合型インターネットセキュリティサービスは、主にインターネット回線に付帯して提供



通信キャリア、Sier、電力系通信会社様等との間でOEM契約を締結し、長期に亘るパートナーシップを構築

マネージドセキュリティサービスのOEMパートナー 全31社(2023年2月末時点)

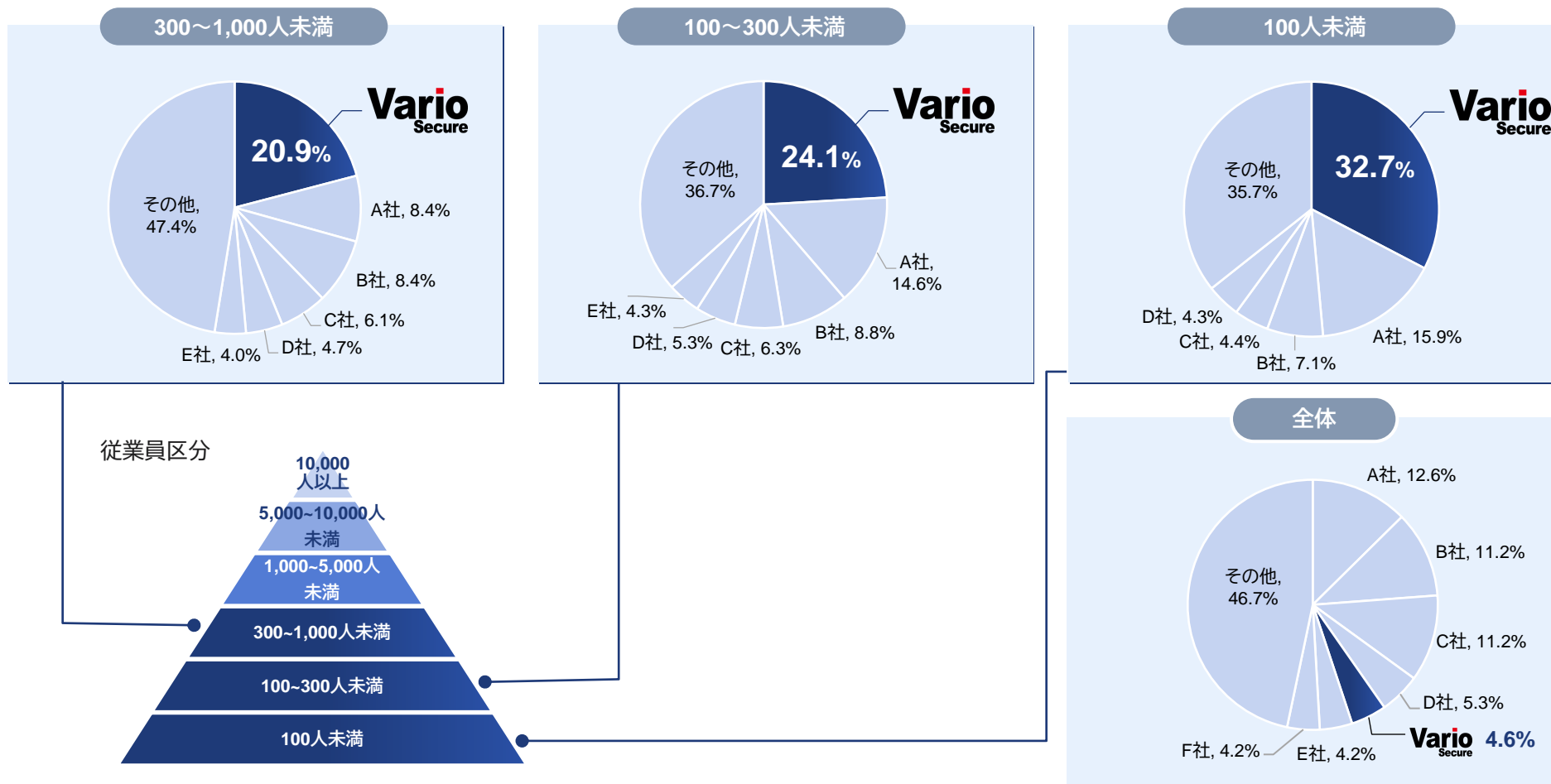


他多数


※左上から右下への50音順

ファイアウォール/UTM運用監視サービス市場において、従業員1,000人未満の企業ではトップシェア

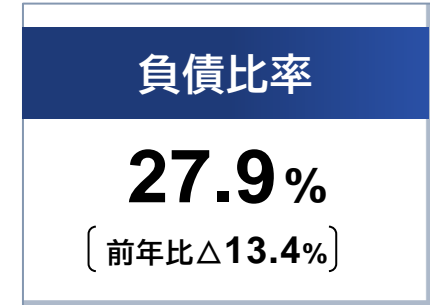
■ ファイアウォール/UTM運用監視サービス市場ベンダー別売上金額シェア(2021年度)



出所:ITR「ITR MARKET VIEW ゲートウェイ・セキュリティ対策型SOCサービス市場2022」ファイアウォール/UTM運用監視サービス市場(2021年度)

The background features a light blue and white color scheme with a complex pattern of thin, grey circuit-like lines and nodes. A large, faint number '2' is visible in the background, centered behind the main text. The text is presented in a bold, black, sans-serif font.

2. 2023年2月期 決算概要



事業展開方針

結果

主力事業の 深化

マネージドセキュリティサービスに付加価値を付け、差別化を図る

- サポート力の強化
- サービス力の強化



- 当社UTM製品(nシリーズ)をリリースし、ニーズの高い機能を追加、UIの大幅刷新
- 自動化を納品案件の70%まで推進 (VSR-Config)
- HEROZとSOC*1運用管理においてAIによる処理機能を開発中

隣接事業への 事業拡大

VSR(インターネットゲートウェイ)の隣接領域への拡大のスピードUpを図る

- VDaP/EDR(EPP)/V-NSS



- 特定業界(医療業界)にアプローチし、代理店契約、顧客との契約、パイプライン発掘を推進
- ウェビナー、インサイドセールスを活用した顧客開拓
 - EDR：代理店開拓向け、事務機器販売向け
 - VDaP：医療業界向け

※1 SOC(セキュリティ・オペレーション・センター):サイバー攻撃の検出・分析を行い、対応策のアドバイスなどを行う専門組織

売上収益は前年比+2.6%の2,634百万円。主力のマネージドセキュリティサービスが堅調に推移
営業利益は同比△22.7%の581百万円。当期利益は同比△23.4%の383百万円で着地

(百万円)	2022年2月期 通期実績	2023年2月期 通期実績	増減	2023年2月期 通期計画※1	達成率
売上収益	2,566	2,634	+2.6% (+67)	2,650	99.4%
営業利益	751	581	△22.7% (△170)	785	74.0%
当期利益	500	383	△23.4% (△117)	525	73.0%
一株当たり純利益(円) ※2	132.29	93.41	△38.88	-	-
負債比率(%)※3	41.3%	27.9%	△13.4pt	-	-
自己資本比率(%)※4	60.7%	68.7%	+8.0pt	-	-

※1：2022年2月期期末決算短信(2022年4月13日)

※2：一株当たり純利益(EPS)=通期利益÷発行済み株式数

※3：投下資本利益率(ROIC)=NOPLAT(営業利益×(1-税率))÷投下資本(IC)(株主資本(純資産)+有利子負債)×100

※4：負債比率=((短期借入金+長期借入金)÷自己資本)×100

IFRS (国際会計基準)

インテグレーションサービス(P5. ⑤中小企業向け統合セキュリティ機器販売(販売型))の統合セキュリティ機器(UTM)が想定外の競合環境の激化により販売が低迷、新たなサービスを付加した新モデルを追加発売したものの、販売の回復に至っていないため、調達契約の最低購入保証に係る引当金繰入額と棚卸資産評価損を計上

(百万円)	2022年2月期 通期実績	2023年2月期 通期実績	増減
売上収益	2,566	2,634	67
売上原価	969	1,243	274
引当金繰入額	-	94	94
棚卸資産評価損	-	64	64
その他原価	969	1,083	114
売上総利益	1,597	1,390	△206

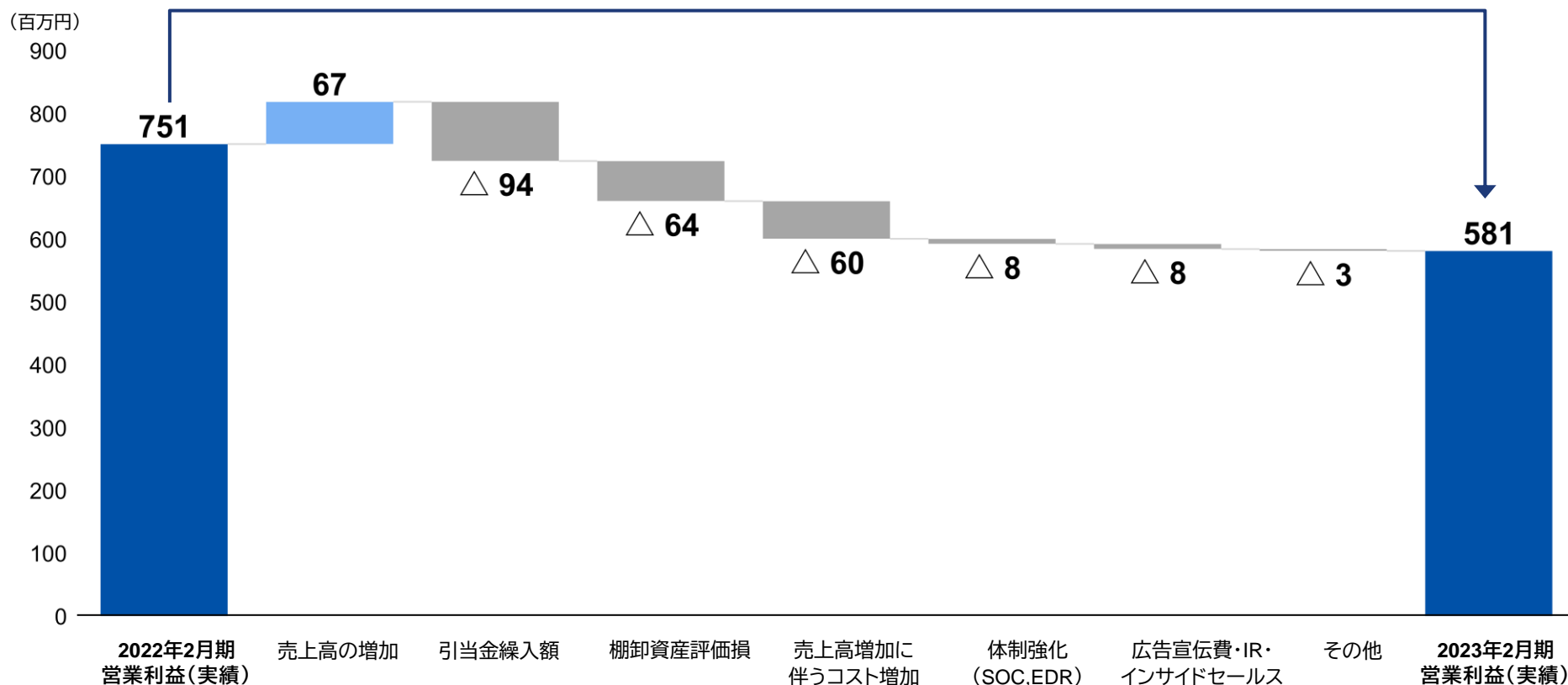
売上原価の増加要因

安定的な数量確保と仕入価格を低減する目的で調達契約を締結。適正在庫を勘案して、仕入れ先との契約に関する最低購入保証に係る引当金の繰入額及び棚卸資産評価損を計上

売上収益の増加により売上原価増、マネージドセキュリティサービスのVSR nシリーズリリースに伴う減価償却費の増加

営業利益は、前年比△22.7%の581百万円、営業利益率22.1%

売上増加+67百万円に対し、主に、引当金繰入額△94百万円、棚卸資産評価損△64百万円、材料費等のコスト増で△60百万円、体制強化・広告宣伝費等で△19百万円



IFRS (国際会計基準)

継続的な収益の積上げ及び第三者割当増資により、自己資本比率は+8.0pt増の68.7%
計画的な借入返済により有利子負債残高は着実に減少

(百万円)	2022年 2月期末	2023年 2月期末	増減
資産合計	7,122	7,826	704
流動資産	1,249	1,925	676
非流動資産	5,872	5,900	27
のれん	5,054	5,054	0
負債合計	2,799	2,447	△351
流動負債	2,403	832	△1,571
非流動負債	395	1,614	+1,219
資本合計	4,323	5,378	+1,055
負債及び資本合計	7,122	7,826	704

財務指標

	2022年 2月期末	2023年 2月期末
のれん純資産倍率※1	1.17x	0.94x
有利子負債	1,786百万円	1,500百万円
Net D / E レシオ※2	32.3%	8.6%
Net D / EBITDA倍率※3	1.6x	0.6x
自己資本比率	60.7%	68.7%

※1: のれん純資産倍率=のれん / 資本

※2: Net D / E レシオ=Net Debt / 資本 (純有利子負債: 有利子負債残高(短期借入金、長期借入金)- 現金及び現金同等物(預金))

※3: Net D / EBITDA倍率=Net Debt / EBITDA (償却前営業利益: 金利や税、減価償却費を計上する前の利益)

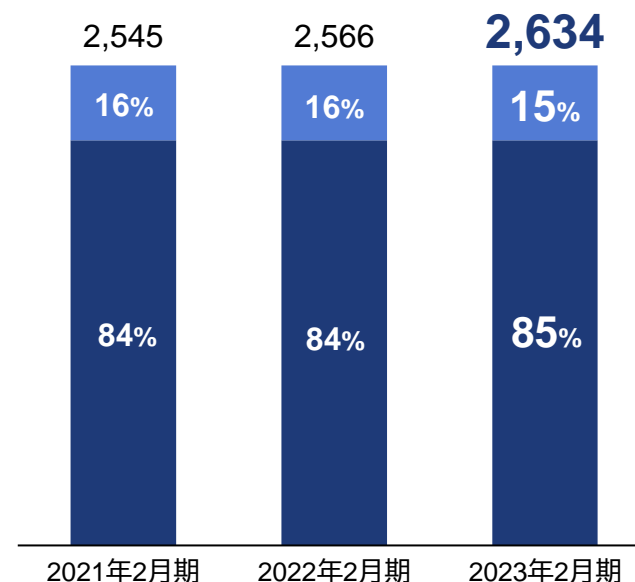
IFRS (国際会計基準)

マネージドセキュリティサービスは「Vario Endpoint Security」が堅調に推移し、前年比+3.5%
 インテグレーションサービスは統合セキュリティ機器(UTM)の販売低迷により同比△1.9%で着地

(百万円)	2022年 2月期 通期実績	2023年 2月期 通期実績	増減	2023年 2月期 通期計画	達成率
売上収益	2,566	2,634	+2.6% (+67)	2,650	99.4%
マネージドセキュ リティサービス	2,165	2,240	+3.5% (75)	2,241	99.9%
インテグレーション サービス	401	393	△1.9% (△7)	408	96.5%

売上収益推移

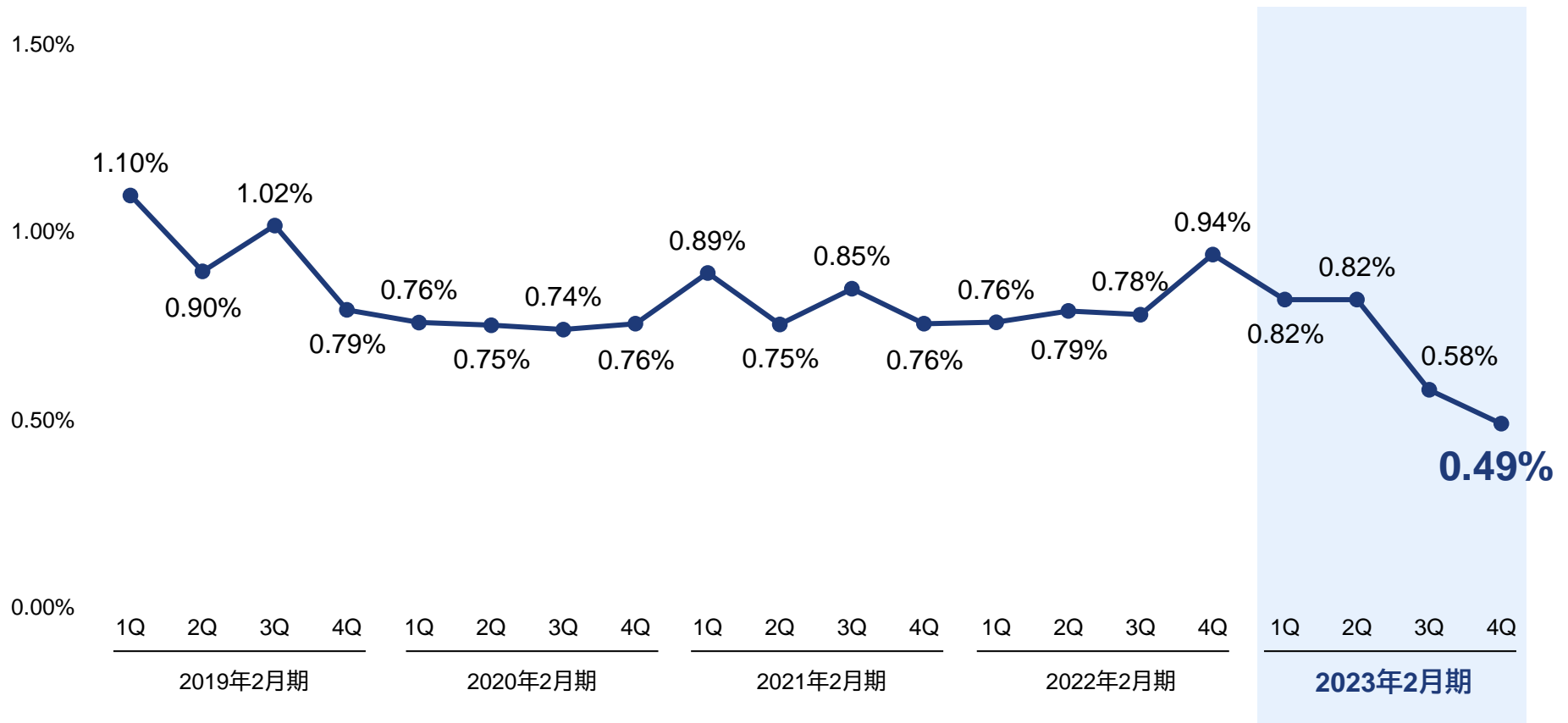
- インテグレーションサービス
- マネージドセキュリティサービス



IFRS (国際会計基準)

統合型インターネットセキュリティ(マネージドセキュリティサービス)の解約率※1は、1%以下の低い水準で推移

■ 四半期解約率の推移



※1: 解約率(金額ベース) = 四半期解約金額 ÷ (各年度の期初ベース月次売上収益 × 3ヶ月)

VSR nシリーズは、テレワークの普及に対応したローカルブレイクアウト機能のWeb会議アプリケーション等への対象拡大をはじめ、URL FilteringのHTTPS対応等の機能強化を実現

導入実績

導入
代理店数

4社

導入企業数

37社

導入台数

53台

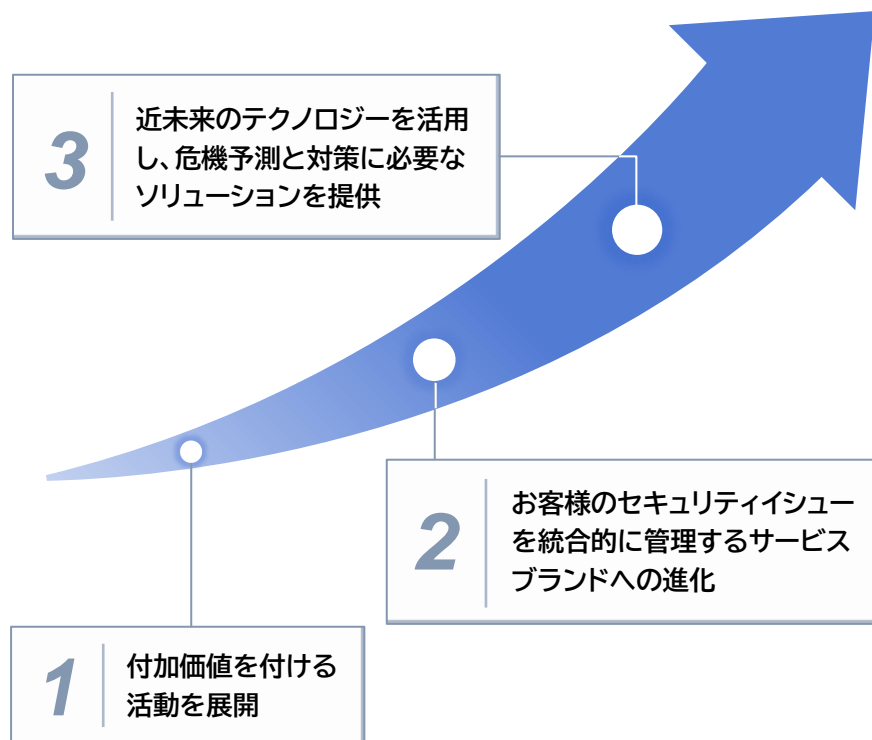
※2023年3月1日時点

 VarioS



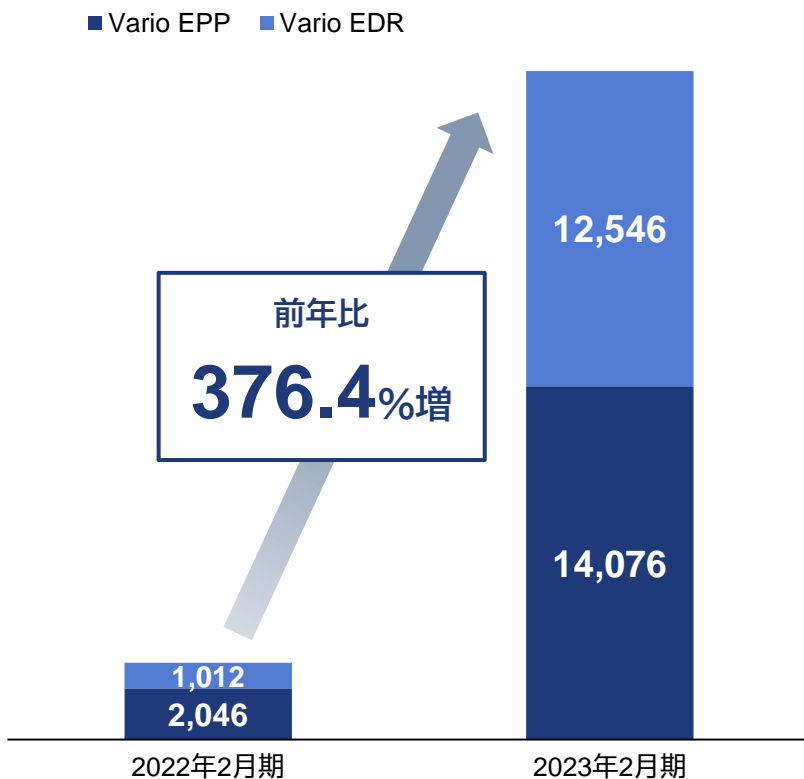
サービス開発のロードマップ

一層の付加価値創造に向け、AI技術の積極的活用や昨今のサイバー攻撃動向、お客様のセキュリティ 이슈に沿った機能強化を継続

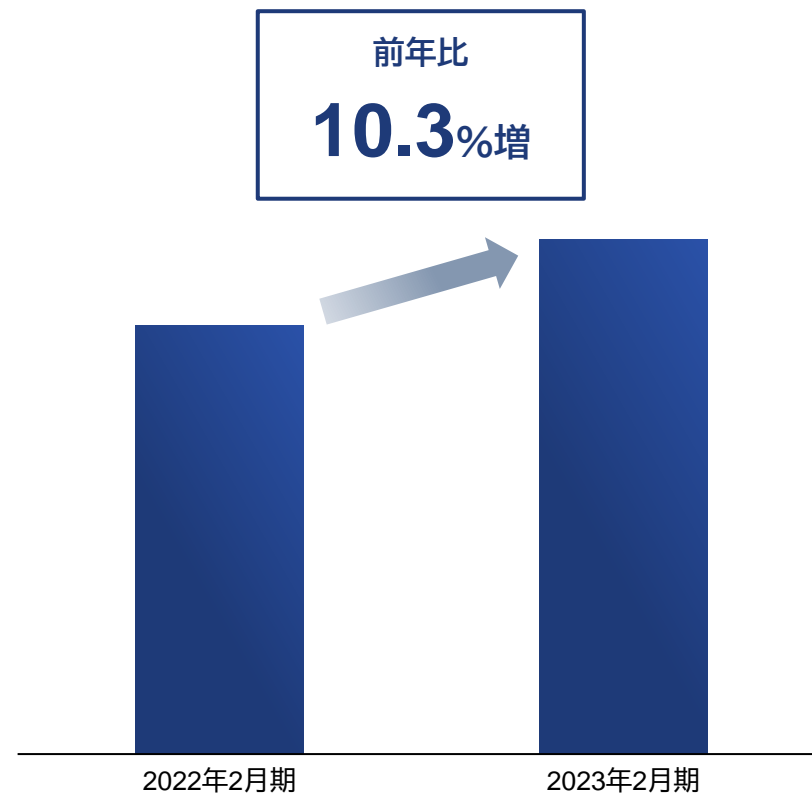



新たなサイバー攻撃被害の拡大を背景に、マルウェア対策に有効な「Vario Endpoint Security」、ランサムウェア対策のバックアップとする「Vario Data Protect」の受注が大幅に増加

マルウェア検知・防御
Vario Endpoint Security ライセンス数



ランサムウェア対応型バックアップ
Vario Data Protect 売上収益



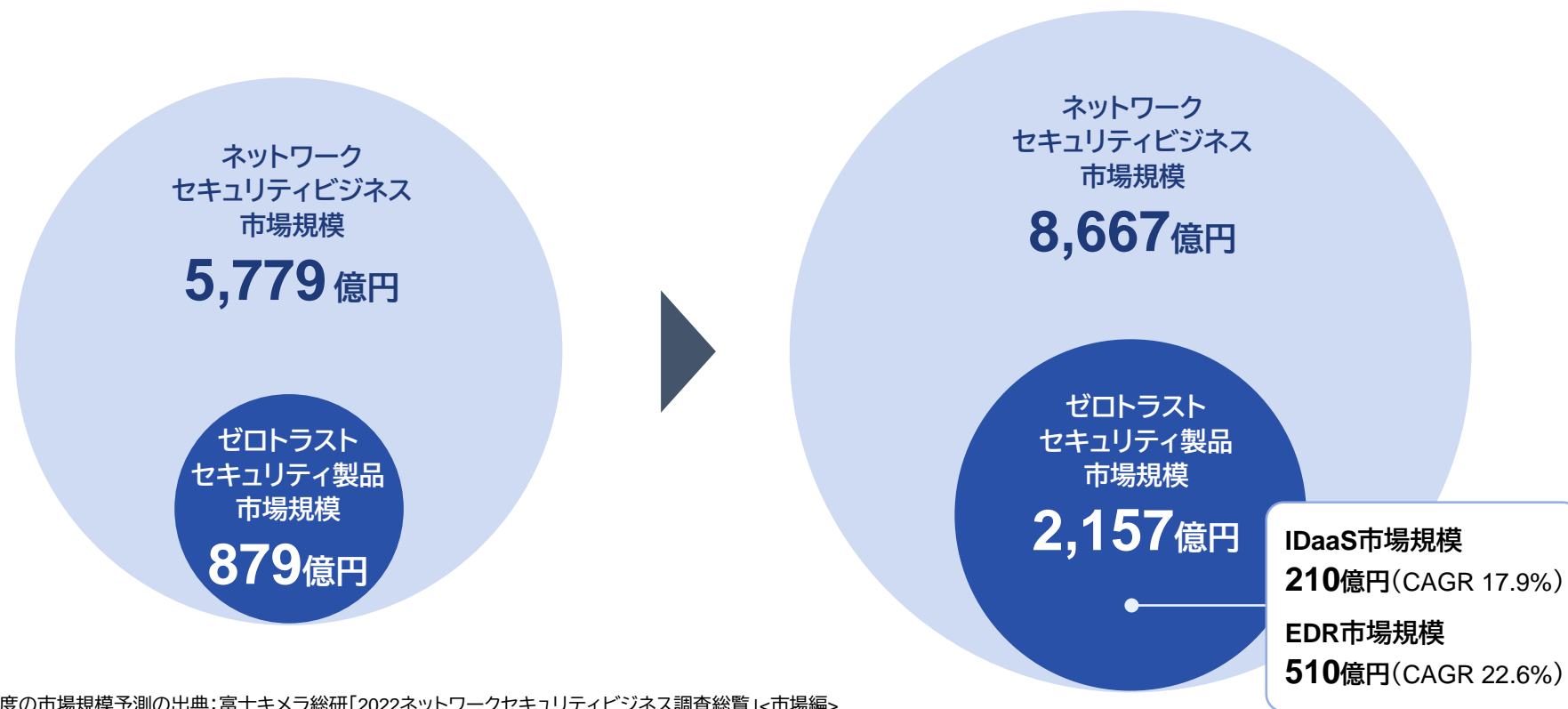


3. 中期成長戦略

在宅勤務等の社会環境の変化、クラウドサービスの利用拡大、サイバー攻撃の高度化の影響を受け、セキュリティのトレンドが境界防御型(侵入させない)からゼロトラスト(侵入ありき)へと不可逆的に変化している

2021年度

2027年度(予測)



※2027年度の市場規模予測の出典:富士キメラ総研「2022ネットワークセキュリティビジネス調査総覧」<市場編>
I.総括編 1.ネットワークセキュリティビジネス市場の展望
I.総括編 9.市場規模推移 2-9 IDaaS、2-23 EDR

外部環境

- 従来の境界防御型の市場成長は年率1.3%※程度の予測
- 「侵入させない」と同時に、「侵入ありき」の多層防御のゼロトラストセキュリティ対策が求められている
- ゼロトラストセキュリティへのニーズは、今後一層高まる見込み

内部環境

- 中小企業向けのアプライアンス型UTM製品市場で安定成長してきたが、当社VSRの直近の新規設置台数は横ばい
- 当社の主力サービスは「侵入させない」を目的とした境界防御型
- マルウェア検知・防御(Vario Endpoint Security)、ランサムウェア対応型バックアップ(Vario Data Protect)は、2桁以上の成長実績



経営課題解決の方向性

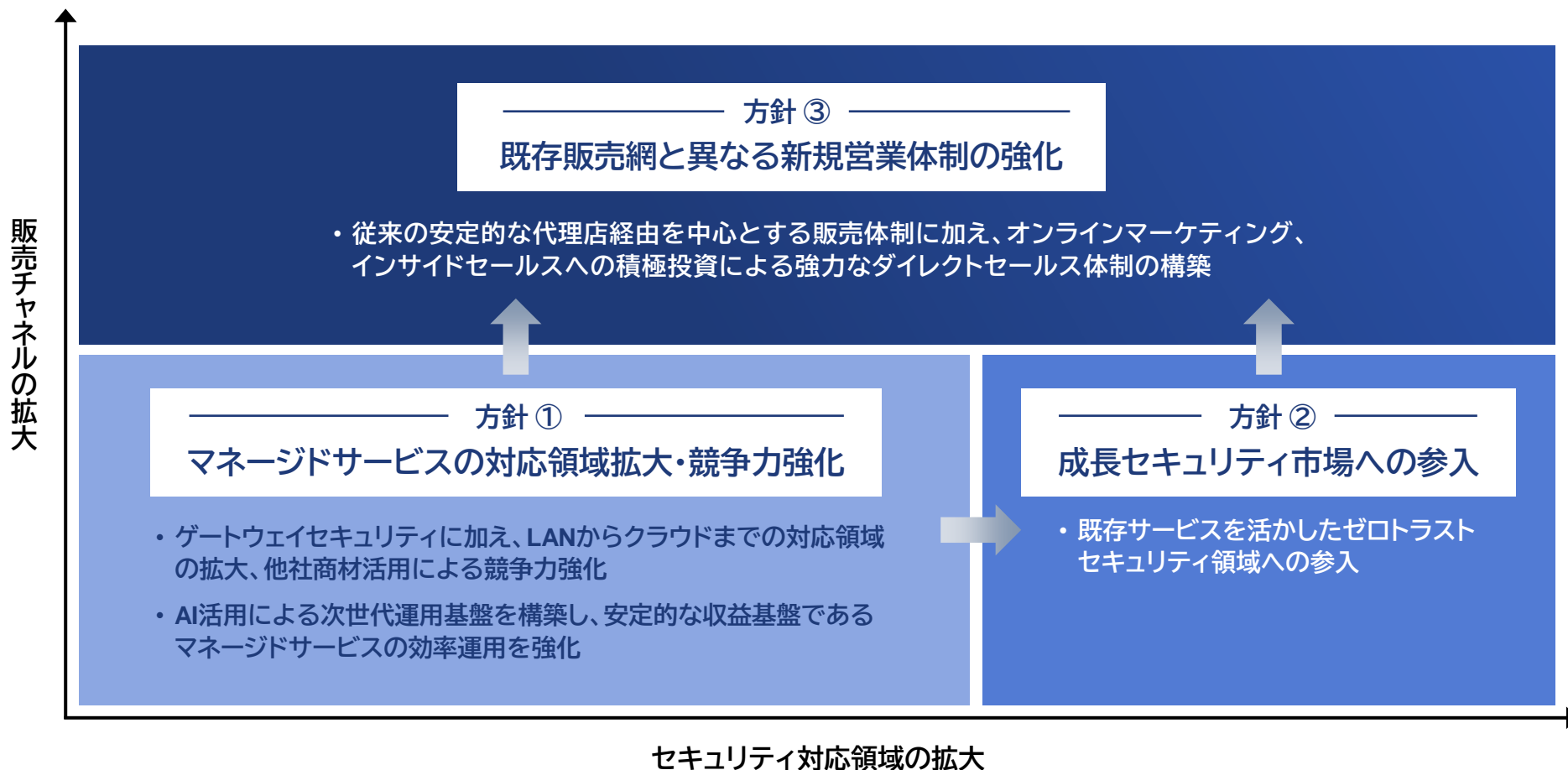
強みの深化と成長市場への投資と戦略的な顧客開拓の実行

✓ 強みの深化

✓ 成長市場への投資

✓ 戦略的な顧客開拓

中長期的な事業投資により、「マネージドサービスの対応領域拡大・競争力強化」「成長セキュリティ市場への参入」「既存販売網と異なる新規営業体制の強化」を推進



4年間で売上収益+42.8%、営業利益+58.3%の成長を図る

2023年2月期実績

売上収益	2,634 百万円
営業利益	581 百万円

2027年2月期目標

売上収益	3,763 百万円	(2023年 2月期比 +42.8%)
営業利益	920 百万円	



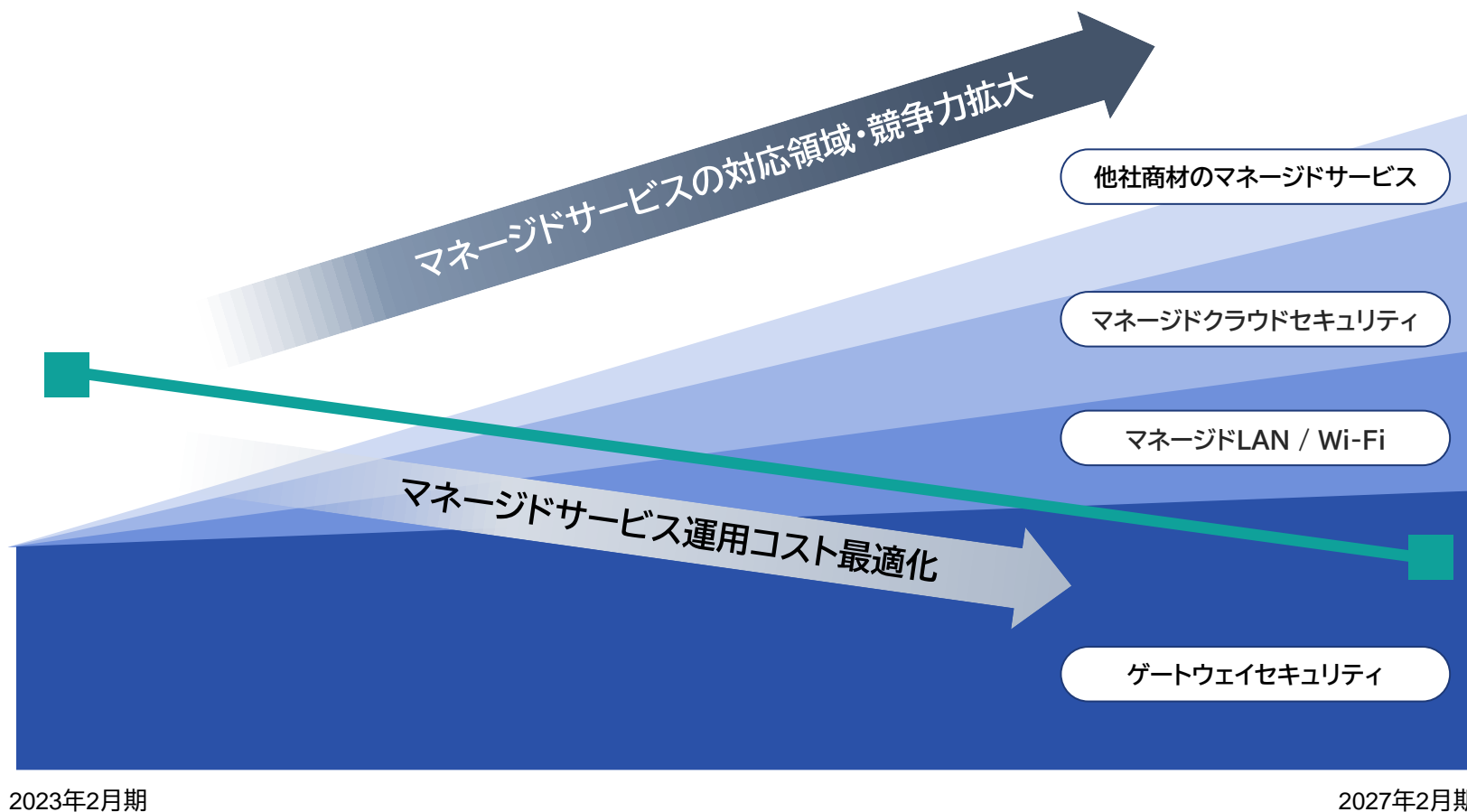
2023年2月期

2027年2月期

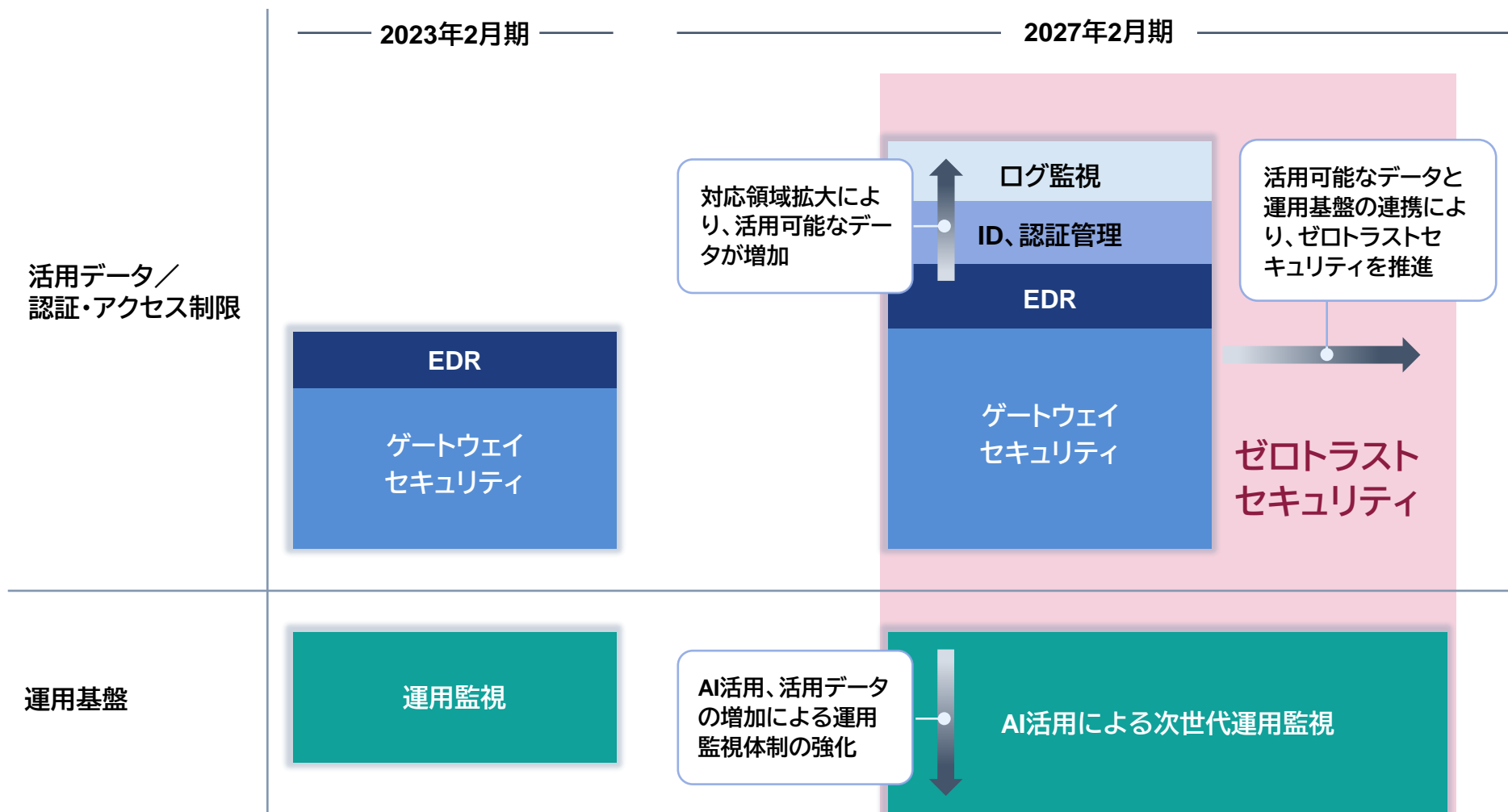
IFRS(国際会計基準)

方針① マネージドサービスの対応領域拡大・競争力強化

- ゲートウェイセキュリティに加え、LANからクラウドまでの対応領域の拡大、他社商材活用による競争力強化
- AI活用による次世代運用基盤を構築し、安定的な収益基盤であるマネージドサービスの効率運用を強化

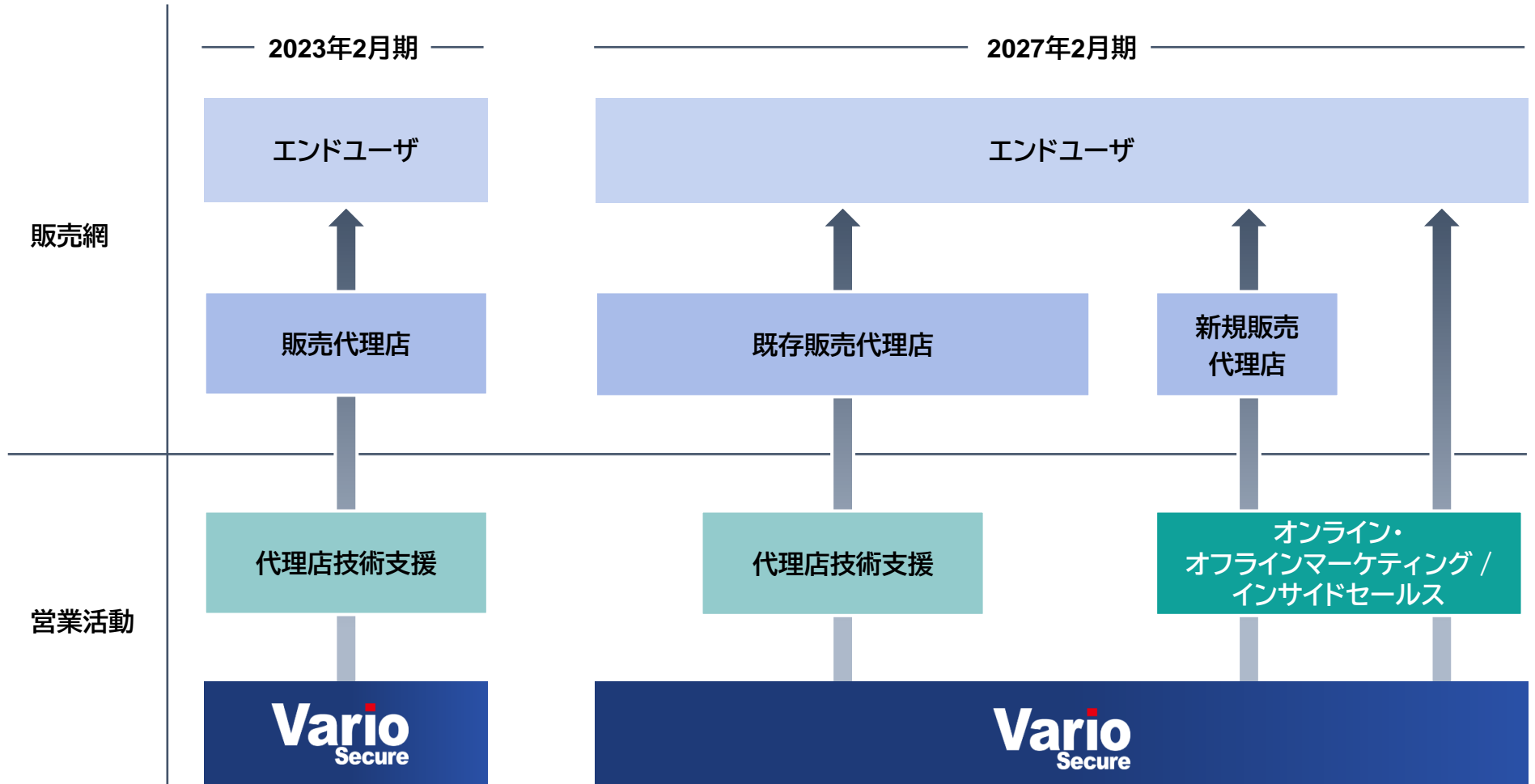


既存サービスを活かしたゼロトラストセキュリティ領域への参入



方針③ 既存販売網と異なる新規営業体制の強化


従来の安定的な代理店経由を中心とする販売体制に加え、オンラインマーケティング、インサイドセールスへの積極投資による強力なダイレクトセールス体制の構築



2024年2月～2026年2月期に亘り、営業力強化のための人件費、開発費のほか、新たな販路の獲得のためにマーケティング費用を投下する

2024年2月期～2026年2月期

人件費 新規サービス企画・営業部門強化	258 百万円
開発費/SOC運用強化費用 ソフトウェア開発等	155 百万円
マーケティング費 認知度向上、リード獲得	100 百万円
M&A 保守運用・脆弱性診断等	400 百万円
合計	913 百万円

The background features a light blue and white color scheme with faint, stylized circuit board traces and geometric shapes. A prominent horizontal blue gradient bar spans the middle of the page, serving as a backdrop for the main title. The title text is centered within this bar.

4. 2024年2月期 業績予想

2024年2月期の通期計画は、前年比+1.9%の2,685百万円
 営業利益は同比△21.4%の456百万円。当期利益は同比△19.5%の308百万円
 中長期成長戦略の実現に向けて事業投資により減益を計画(詳細はP31をご参照)

(百万円)	2023年2月期 通期実績	2024年2月期 通期計画	増減
売上収益	2,634	2,685	+1.9% (+51)
営業利益	581	456	△21.4% (△124)
当期利益	383	308	△19.5% (△74)
一株当たり純利益(円)	93.41	68.30	△25.11

IFRS(国際会計基準)

2024年2月期 対前年比の費用(売上原価・販売管理費)の見込

(百万円)

2,500

2,000

1,500

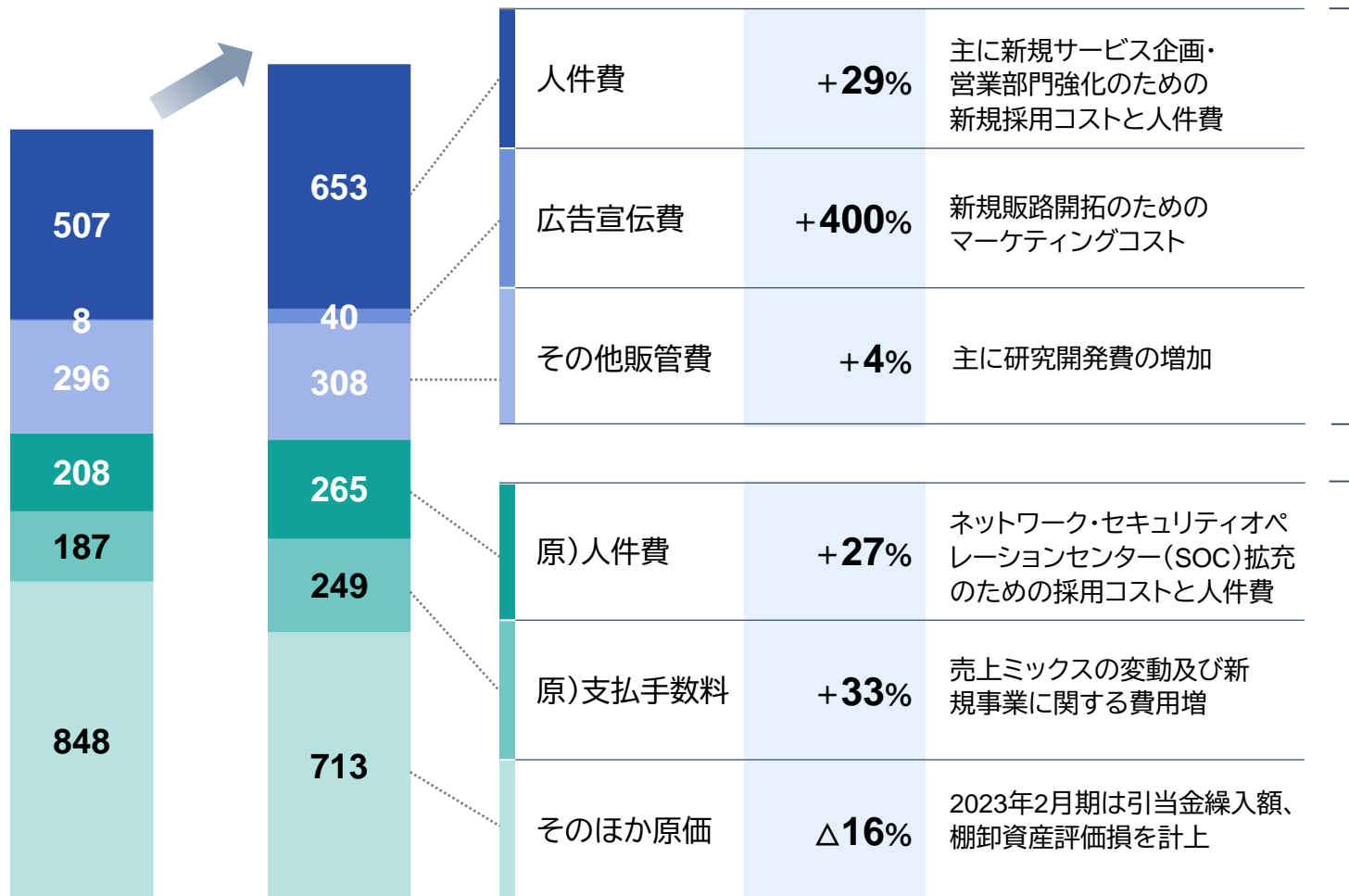
1,000

500

0

2023年2月期実績

2024年2月期計画

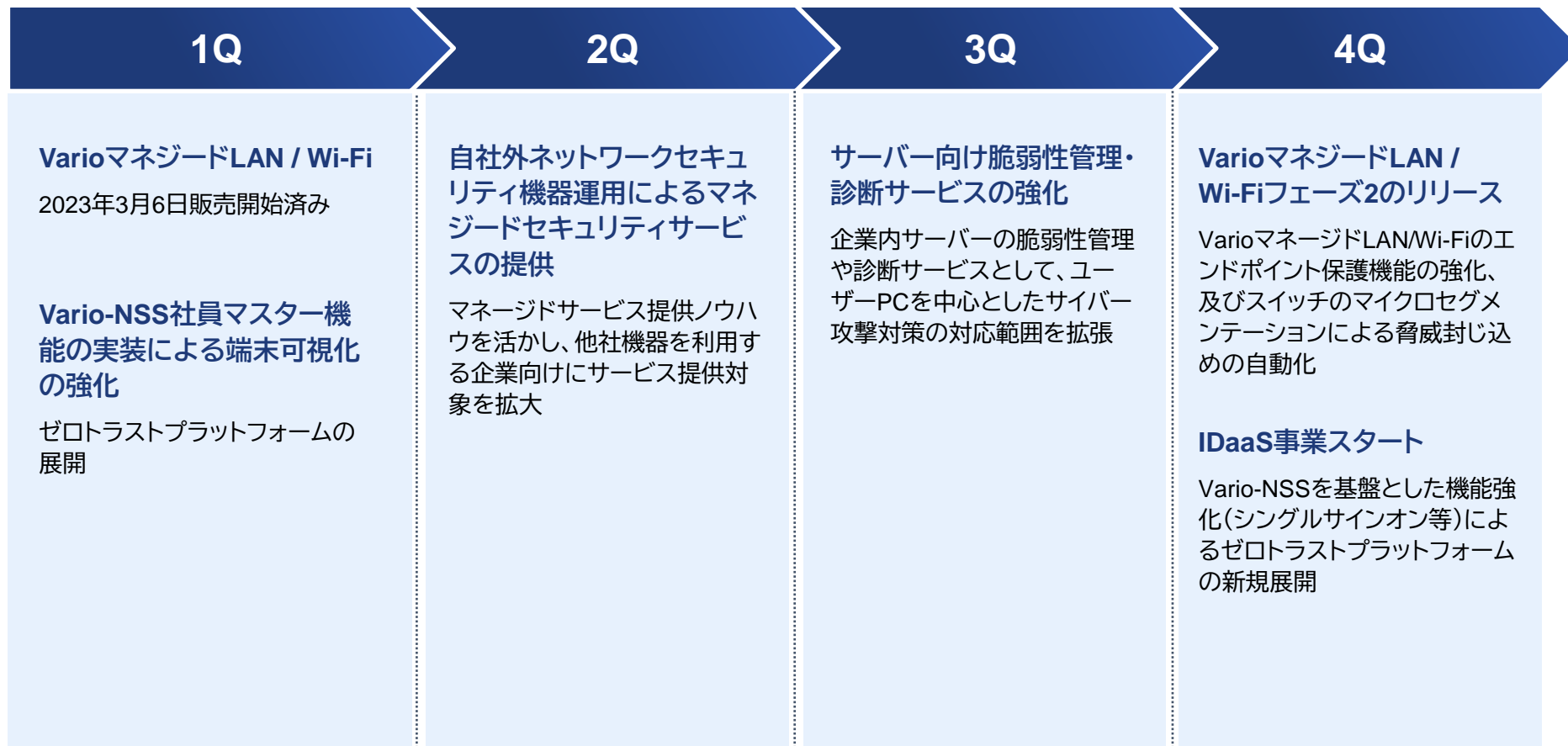


販売管理費
+23.4%

売上原価
△1.3%

IFRS(国際会計基準)

2024年2月期にサイバー攻撃対策の強化と、ゼロトラストセキュリティの本格提供に向けたプラットフォーム整備を中心とするサービスリリースを計画



■ 基本方針の変更

当社は、必要な内部留保を確保しつつ安定的な配当を目指すことを基本方針としておりましたが、2024年2月期～2027年2月期の4期間については、更なる成長のための中期事業計画の実現に向けて、資金を人材投資、サービス開発、M&A等に充当することを優先いたします。そのため、上記の期間は無配とさせていただきたく、ご理解のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

なお、変更後の配当方針は、2024年2月期の期末配当より適用します。

■ 株主還元

2023年2月期（※2022年4月13日公表の配当予想からの変更はございません。）

年間配当金

182百万円

1株当たり配当金

40.5円

配当性向
(IFRSベース)

43.4%

配当利回り^{※1}

3.6%

※1 2023年2月28日終値に基づき算出

The background features a light blue and white color scheme with a central horizontal blue gradient bar. Faint, stylized circuit board traces and geometric shapes are scattered across the page. The main title is centered on the blue bar.

5. 參考資料

Endpoint Securityエンジンの提供パートナーWithSecure社より、年間販売成長率の評価を受け「Partner Award 2022 Partner of the Year」を受賞



自社ウェビナー、オンラインイベント出展、セミナー講演によるマーケティング活動強化

自社サービスに関する共催ウェビナーの実施と、オンデマンド配信、イベント出展や講演に参加。感染被害が継続して報告されるランサムウェアへの対策を中心とするタイムリーな情報を発信。

日本医療情報学連合大会への出展など、医療機関へのランサムウェア攻撃から電子カルテデータを守るためのバックアップソリューションやEDR提案など業界に特化したアプローチを強化。

2023年2月期マーケティング活動

共催ウェビナー／オンデマンド配信	イベント出展・講演
2022/3/10 【自社ウェビナー】 中小企業のネットセキュリティをワンパッケージで提供する新「VCR」をご紹介	2022/4/6・5/11 【オンライン・オンデマンド配信】 株式会社ナノソフト・メディア主催 今必要なランサムウェア・Emotet対策とは何か、最新インシデントを解説しながら、今後の検知・隔離・侵入対応策をご提案
2022/3/17 【共催ウェビナー】 資本提携・協業による次世代ネットセキュリティの可能性を解説！ AI活用によるVarioマネージドセキュリティサービスの未来をCTO達が語り合う	2022/5/11 【セミナー講演】 RX Japan株式会社主催 第6回AI・人工知能EXPO[春] HEROZブースにて特別セミナー 資本提携・協業による次世代ネットセキュリティの可能性
2022/3/24 【自社ウェビナー】 今必要なランサムウェア対策とは何か、検知・隔離・侵入対応を中心に製造業などの最新事例を解説！ 注目のエンドポイントセキュリティ+バックアップをご提案	2022/6/30・7/2 【イベント出展】 一般社団法人日本医療情報学会主催 第26回日本医療情報学会春季学術大会 シンポジウム2022 in せとうち ブース出展およびWebサイト展示
2022/4/7 【自社ウェビナー】 マネージドセキュリティサービス新シリーズが実現する次世代サービスの解説！ 新機種への機能・サービス追加と外部連携を見据えた拡張性で、さらなる「高速」で「広範囲」まで対応	2022/7/13・8/10 【オンライン・オンデマンド配信】 株式会社ナノソフト・メディア主催 NANO OPT Media Online 最新のランサムウェア・Emotet対策とは ～インシデントを解説しながらガイドラインに添った検知・隔離から事後対応までをご紹介～
2022/5/26 【自社ウェビナー】 ランサムウェア・Emotet・ゼロデイ攻撃を見越した最新の対策とは？ エンドポイントセキュリティ+バックアップを強化して安心・安全なネットワーク運用をご提案	2022/11/17～20 【イベント出展】 一般社団法人医療情報学会主催 第42回医療情報学連合大会(第23回日本医療情報学会学術大会) ブース出展
2022/6/9 【共催ウェビナー】 社員の行動によるウイルス感染や情報漏洩対策はできていますか？ 国内シェアNo.1のWebフィルタリングを備えた次世代マネージドセキュリティサービスで解決	2022/11/28 【イベント講演】 株式会社フィックスポイント主催 Kompass Days 2022 Sonarを活用したクライアントPCの脆弱性管理
2022/7/21 【自社ウェビナー】 中小企業をEmotetの脅威から守るネットセキュリティのご提案 Emotetの解説と対策をご紹介	
2022/7/28 【自社ウェビナー】 今、注目のITセキュリティ商材でVarioが選ばれる理由とは	
2022/11/10 【共催ウェビナー】 侵入されても準備があれば大丈夫！ 今後のサイバー攻撃対策と対応とは～新しいサイバー攻撃からいざという時の対応策としてEDR・データバックアップとサイバー保険があれば安心	
2022/11/17 【オンデマンド配信】 株式会社USEN ICT Solutions主催 ランサムウェア対策には「バックアップ」が重要！ セキュリティベンダーが提供するバックアップサービスとは？	
2022/12/20 【自社ウェビナー】 中小企業が抱える「ランサムウェア感染」の底知れぬ不安、どう解消できる？ 高度化するサイバー攻撃に有効な「エンドポイントセキュリティ」「バックアップ」対策の進め方	
2023/2/16 【自社ウェビナー】 サイバー攻撃対策に何が必要か、どう選ぶか、中小企業必見のセキュリティ対策とは 次世代型UTMにウイルス駆除支援・運用サービス・サイバー保険まで、Emotet・ランサムウェアなどサイバー攻撃対策をワンパッケージにした新サービスをご紹介	
2023/2/22 【自社ウェビナー】 今、中小企業ITセキュリティの落とし穴とは！ セキュリティ対策は「最大化！」が限られた予算・リソースの中でカギになる	

企業のインターネット接続からテレワークのセキュリティまで様々なニーズに対応

お客様ニーズ		サービス	メリット
①	インターネット接続のセキュリティ/運用をまかせたい	統合型インターネットセキュリティサービス(VSR)	<ul style="list-style-type: none"> 専用機器を設置するだけの簡単導入 社内担当者の運用負担を大幅軽減 手間なく機器を最新状態に維持できる 24時間365日の運用監視、サポートに対応可能 万が一の障害時の手厚いサポート
②	社内の端末情報を負担なく把握したい	Vario-NSS	<ul style="list-style-type: none"> 専用機器を設置するだけの簡単導入 端末へのソフトウェアインストールは不要 端末のIPアドレス情報などを自動取得 脆弱性管理を大がかりなシステム不要で実現 運用負担の少ないシンプル構成
③	テレワーク端末の脆弱性対策と、社員の業務状況を可視化したい	Vario Telework Manager	<ul style="list-style-type: none"> テレワークの端末情報を把握・管理が可能 テレワークのセキュリティレベルを向上 脆弱性を可視化し、更新の未適用を把握 テレワーク社員の業務状況を、通信量、アプリの稼働状況から確認可能
④	管理や運用負担なく、社内の重要データをバックアップしたい	Vario Data Protect	<ul style="list-style-type: none"> 必要な機器、ソフトウェア、クラウド環境を月額定額でご利用可能 ランサムウェア感染リスクを軽減した仕組みによる安全なバックアップ ローカルのバックアップ用機器+クラウド2拠点への冗長対策済み 管理・運用負担を軽減したマネージド型サービス
⑤	標的型攻撃やランサムウェアなどのサイバー攻撃被害を未然に防ぎたい	Vario EDRサービス	<ul style="list-style-type: none"> 高度化したウィルス、マルウェア対策として効果的 マネージド型サービスにより、リスクの高い攻撃検知後の対応をサポート 少ない運用負担で、社内だけでなくテレワーク環境の端末保護にも有効
⑥	メールの誤送信防止を強化したい	メールセキュリティサービス	<ul style="list-style-type: none"> メールを一定期間保留し、メール送信のキャンセルに対応 上長の承認機能など、重要メールの送信ミスを防止 様々なルール設定に対応した送信ブロック機能により送信ミスを排除
⑦	社内のファイル共有を安全かつ便利に実施したい	FileFlex	<ul style="list-style-type: none"> 社内のファイルサーバのファイルを、クラウドやVPNを利用することなく簡単、安全にファイル共有可能 アクセス権限の設定やアクセス履歴確認など、自由度を損なうことなく安全性を確保
⑧	自社のネットワーク課題を解決するための環境を構築したい	ネットワークインテグレーションサービス	<ul style="list-style-type: none"> 様々な環境構築実績を持つ、ネットワーク、セキュリティを熟知した技術者による対応 お客様ニーズに沿った幅広い機器・サービスの選定が可能 オンプレミスからクラウドまで幅広い領域をカバー
⑨	社内のネットワークスイッチ、Wi-Fiアクセスポイントの運用をまかせたい	VarioマネージドLAN / Wi-Fi	<ul style="list-style-type: none"> オフィス内LAN / Wi-Fiの運用・管理を強力サポート ネットワークスイッチやWi-Fiアクセスポイントのお客様管理負担を大幅に軽減 24時間365日の機器監視による安心運用

IPAが「情報セキュリティ10大脅威2023(組織編)」を公表。「ランサムウェアによる被害」が昨年に引き続き、首位。「犯罪のビジネス化(アンダーグラウンドサービス)」が新規にランクイン

順位	組織	前年順位
1位	ランサムウェアによる被害	1位
2位	サプライチェーンの弱点を悪用した攻撃	3位
3位	標的型攻撃による機密情報の窃取	2位
4位	内部不正による情報漏えい	5位
5位	テレワーク等のニューノーマルな働き方を狙った攻撃	4位
6位	修正プログラムの公開前を狙う攻撃(ゼロデイ攻撃)	7位
7位	ビジネスメール詐欺による金銭被害	8位
8位	脆弱性対策情報の公開に伴う悪用増加	6位
9位	不注意による情報漏えい等の被害	10位
10位	犯罪のビジネス化(アンダーグラウンドサービス)	圏外

出所:情報セキュリティ10大脅威 2023:IPA 独立行政法人 情報処理推進機構

略語(表記)	内容
VSR	Vario Secure Router 当社マネージドセキュリティサービスで利用している専用機器
Vario-NSS	Vario Network Security Suite 当社マネージドセキュリティサービスで提供している社内ネットワーク向けサービス。デバイス探査/デバイス監視/脆弱性管理を提供している
VDaP	Vario Data Protection 当社マネージドセキュリティサービスで提供しているハイブリッド型バックアップサービス
VSR-Config	VSR-Config 当社マネージドセキュリティサービスで利用している専用機器の自動設定ツール
EDR	Endpoint Detection and Response エンドユーザが利用するパソコンやサーバー(エンドポイント)における不審な挙動を検知し、迅速な対応を支援するサービス
EPP	Endpoint Protection Platform 従来型のアンチウイルスソフトウェアなど、エンドポイントにインストールするセキュリティプラットフォームの総称
UTM	Unified Threat Management ファイアウォール・アンチウイルス・IPS/IDS・Webフィルタリングなど、複数のセキュリティ機能を統合したアプライアンス製品のこと
OEM	Original Equipment Manufacturing(Manufacturer) 他社ブランドの製品を製造すること(あるいはその企業)を指す
SOC	Security Operation Center 24時間365日体制でネットワークやデバイスを監視し、サイバー攻撃の検出や分析、対応策のアドバイスを行う

インターネットを利用する全ての企業が
安心して快適にビジネスを遂行できるよう、
日本そして世界へ全力でサービスを提供する

Vario
Secure

- 本資料には、当社に関連する予想、見通し、目標、計画等の将来に関する記載が含まれています。これらは、当社が作成時点において入手した情報に基づく、当該時点における予測等を基礎として作成されています。これらの記載は、一定の前提および仮定に基づいており、また、当社の経営陣の判断または主観的な予想を含むものであり、国内外の経済状況の変化、市場環境の変化、社会情勢の変化、他社の動向等の様々なリスクおよび不確実性により、将来において不正確であることが判明しまたは将来において実現しないことがあります。したがって、当社の実際の業績、経営成績、財政状態等については、当社の予想と異なる結果となる可能性があります。
- 本資料における将来情報に関する記載は、作成時点のものであり、当社は、それらの情報を最新のものに随時更新を行う義務を負うものではありません。
- 本資料に記載されている当社以外の企業等に関する情報および第三者作成にかかる情報は、公開情報または第三者が提供する情報等から引用したものであり、そのデータ、指標、分析等の正確性、適切性等について、当社は独自の検証を行っておらず、何らその責任を負いません。